

科目区分：芸術文化課程（音楽文化コース）

授業科目名：ピアノ④・ピアノ⑤

対象年次：3年次

## ピアノの実技演習

音楽教育講座・福富 彩子

### 1. 授業の目的と到達目標

本授業は、ロマン派及び近代におけるピアノ作品を取り上げ、楽曲構造を理解し、演奏技術と表現力を高めるためのピアノ奏法を学ぶことを目的としている。卒業研究へ結びつく「ピアノ」は、①～⑤まで段階的に履修していく科目であり、「ピアノ④、⑤」は3年次に習得する発展的内容となっている。到達目標は、課題の実施によりピアノに対する知識と演奏能力を身につけ、豊かな表現力で演奏できるようになることである。

### 2. 授業の概要について

本授業は、芸術文化課程音楽文化コース3回生を対象に前期および後期に開講されている。今期、「ピアノ④、⑤」を段階的に履修した受講者は9名であり、いずれの学生もピアノの演奏経験を有している。本授業は、演習を中心としており、ピアノの技術・表現の習得には、授業外学習（予習・復習）が重要となる。また、受講者各自の選曲は、これまで取り組んできた課題及び熟達度に応じて、相談の上決定した。なお、最終試験において、演奏会形式による発表を行った。

#### 1) DPについて

○演奏・作品創作や音楽の学問的研究などで培った知見をもとに、音楽文化に関するさまざまな課題について、適切な対応を考えることができる。

（思考・判断）

○音楽文化に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な音楽活動ができる。（関心・意欲）

#### 2) 演奏課題について

「ピアノ④」（ロマン派の作品）

- シューマン：ピアノソナタ第2番 第1楽章
- リスト：タランテラ
- メンデルスゾーン：厳格なる変奏曲
- ブラームス：ピアノソナタ第1番 第1楽章
- ショパン：スケルツォ第2番
- ラフマニノフ：ピアノソナタ 第2番
- チャイコフスキー：ドゥムカ 他

「ピアノ⑤」（ロマン派から近現代にかけての作品）

- ラヴェル：水の戯れ
- ドビュッシー：版画
- ヒナステラ：アルゼンチン舞曲
- カプースチン：8つの演奏会用エチュード
- リスト：死の舞踏（サン=サーンス）
- リスト：詩的で宗教的な調べ
- ラヴェル：スカルボ 他

### 3. 授業時に心がけた点

#### 1) 演奏時の音色づくりに関して

演奏時には、楽譜に示された情報を正確に表現することの他に、“音色づくり”のための技術を要する。本授業を履修している受講者は、ピアノ演奏に関する基礎的な知識および技能を有しているため、発展的内容として、高度な技術が要求される“音色づくり”に重点を置いた。具体的には、精緻な打鍵コントロールによって要求する音や和音を作り出すための技能を養うことである。授業時、学習者が演奏しづらいと感じている箇所をピックアップし、その要因を明らかにした上で練習方法をいくつか提案し、毎時の課題とした。また、学習者自身が思考したアイデアを具現化するため

に、楽曲構造及び表現に関する問いかけを行い、表現内容（アゴーギク、デュナーミク、フレージング等）を楽譜に記してもらった。それらの作業により、自らの練習課題を認識し、表現及び技術の向上と授業外学習のモチベーションへと結びつくことを意図した授業展開を心がけた。

#### 2) 映像（音源）によるフィードバック

試験終了後、受講生と演奏時の映像を確認し、具体的な演奏内容について振り返りを行った。演奏時にはなかった「気づき」とともに、学習者が次のステップとなる明確な目標が持てるよう配慮した。

### 4. 授業アンケート

本授業終了時、「ピアノ④」および「ピアノ⑤」を継続して段階履修している受講者9名を対象に下記の7項目の4段階評定によるアンケートを実施した。

#### 1) 結果について

1. 本授業に興味を持つことができましたか。

そう思う 9名 (100%)

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

2. 本授業で用いた教材についてどう思いますか。

適切であった 8名 (88%)

どちらかといえば適切であった 1名 (11%)

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

3. 本授業の進度についてどう思いますか。

適切であった 8名 (88%)

どちらかといえば適切であった 1名 (11%)

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

4. 本授業の難易度についてどう思いますか。

適切であった 7名 (77%)

どちらかといえば適切であった 2名 (22%)

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

5. 授業時間外学習の取り組みはどうでしたか。

充分であった 4名 (44%)

どちらかといえば充分であった 4名 (44%)

どちらかといえば充分でなかった 0名

充分でなかった 1名 (11%)

6. 受講後、新しい知識や技能を得ることはできたと思いますか。

そう思う 9名 (100%)

どちらかといえばそう思う 0名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

7. 受講後、到達目標は達成できたと思いますか。

そう思う 4名 (44%)

どちらかといえばそう思う 5名 (55%)

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

#### 2) アンケート結果のまとめ

アンケート結果により、全員の受講者が本授業に興味を持ち、受講後に新しい知識や技能を得ることができたと回答した。また、用いた教材や授業の進度、難易度に関して、約8割の受講者が「適切であった」と回答した。さらに、授業時間外学習について、約9割の受講者が「充分であった」、「どちらかといえば充分であった」と回答。到達目標の達成についても、ポジティブな回答が得られた。9名の受講者は、難易度の高い課題へ取り組みながら卒業研究を指標に学習しており、興味関心や意識の高さがアンケート結果からも伺えた。

### 5. 今後の課題

今後の課題は、演奏時の有効な振り返り（フィードバック）を授業時にどのように取り入れるか、ということである。限られた授業時間内において、受講者の課題認識が充分でないまま時間切れとなってしまう場合や、次のステップへ進まなければならぬケースが多かった。今後は、全員参加型での授業内容の検討や、聴講学生との相互作用による課題への意識が高まるような工夫が必要であると考えている。